

第43回日本死の臨床研究会の記録

大会長講演

1. 生と死をめぐる葛藤を支え、あきらめずに関わる 安保博文
2. 私と「死の臨床」 松本京子

講演

1. 認知症のある人の看取り 平原佐斗司
2. Autopsy imaging: 死亡時画像診断の実際とその果たす役割 法木左近
3. スピリチュアルペインをアセスメントする 田村恵子
4. スピリチュアルケア: 私の学び, 葛藤, 実践 山崎章郎
5. 自然な看取りを在宅看取り率1位の豊岡から学ぶ
豊岡市の現象から考える 山本大祐
大槻恭子
6. 涙も笑いも, 力になる —院内学級の子どもたちが教えてくれた大切なこと 副島賢和
7. 私が体験した父の看取りと母の看取り 森本有里
8. 日本人の「死の文化」 波平恵美子
9. 看取りケア エビデンスとプラクティス 宮下光令・林糸り子
遺族調査から看取りケアの実践へ 林糸り子
10. 慢性心不全の緩和ケア: 在宅の現場から 弓野 大
11. 仏教の死生観と救済観からスピリチュアルケアを考える: 震災の死, 病の死 鍋島直樹
12. 医療現場の意思決定はなぜ不合理になるのか —行動経済学から意思決定支援を考える 平井 啓
13. 死の臨床をめぐる言葉: 死を通じて得る「智慧」に気づく 志真泰夫
14. 死の臨床研究と現象学 浜渦辰二
15. 「施設の看取りで求められる家族との関係性の再構築」—介護施設で死ぬということ 高口光子

セミナー

1. 対話の感性と技術を磨く 倉持雅代
2. 最期まであなたらしく生きるために —マズロー理論の全人的ケアへの応用 山形謙二

災害関連企画

1. 災害急性期からの遺族支援: 日本DMORT の取り組み 村上典子
2. 災害とグリーフケア 高木慶子

市民公開講座

1. 死を背負って生きる 柏木哲夫

シンポジウム1 不治の病に向きあう人とその家族の生と死の葛藤を支える

座長コメント 安保博文・杉江礼子

1. 終末期患者とその家族, そして医療者の生と死の葛藤を支える 池永昌之
2. 看護師としての経験から 二見典子
3. 「寄り添い」と「ケア提供者のビリーフ」 小西達也
4. 生と死の葛藤を支える — 生ききることを支え, 遺されることを支える 橘 直子

シンポジウム2 さまざまな施設で最期を看取る：その現状と支援

座長コメント 白山宏人・市橋正子

1. 施設看取りにおける現状の課題と実践 —在宅医の立場から 白山宏人
2. 認知症高齢者グループホームにおける看取りの現状と課題 山口 宰
3. 介護老人保健施設での看取り 田村 亮
4. ホームホスピスでの暮らしと看取り 金居久美子

シンポジウム3 進行がんの治療継続をめぐる葛藤の共有

座長コメント 池垣淳一・藤原由佳

1. がん薬物療法にやめどきはあるか?
— 凄まじいがん薬物療法の進歩に、私たちの意識改革がついていってない 加藤晃史
2. がん薬物療法を受けながら生きる人をどう支援するか —緩和ケア医の立場から 西本哲郎
3. 治療継続を希望する進行がん患者をどう支えるか 看護外来の経験から 伊藤由美子
4. 社会とのつながりをもって「良く生きる」を支援するために 桜井なおみ

シンポジウム4 認知症のある人の症状マネジメントと意思決定支援

座長コメント 得居みのり

1. 認知症のある人の症状マネジメントと意思決定支援
— 急性期医療の場における意思決定支援について考える 鶴屋邦江
2. 認知症のある人の症状マネジメントと意思決定支援
— 日常生活における意思決定を支援するために 西山みどり
3. 認知症の人の症状マネジメントと意思決定支援 小川朝生

シンポジウム5 苦痛緩和のための鎮静と安楽死：尊厳ある死と死ぬ権利をめぐる

座長コメント 安保博文

1. 終末期の法と倫理 鎮静と安楽死 稲葉一人
2. 治療抵抗性の苦痛を前にして臨床医が考えること 森田達也
3. 鎮静と安楽死を分かつものとは 田代志門
4. 終末期医療に関する法政策の国内外の概況と課題 —治療中止や安楽死をめぐる 田中美穂

シンポジウム6 多様なグリーフケアの展開：病院、葬儀社、遺族会、保健所の取り組み

座長コメント 坂口幸弘・村上典子

1. 患者に関わる人を対象とした岡山赤十字病院グリーフケアチームの活動 石井史子
2. 関西遺族会ネットワークの活動 黒川雅代子
3. 豊中市保健所でのグリーフケアの取り組み 坂口幸弘、他
4. 多様なグリーフケアの展開 —葬儀社による遺族会の15年の実践から見てきたこと 泉原久美

シンポジウム7 人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドラインの意味とその 応用：医療モデルから生活モデルへの転換

座長コメント 木澤義之

1. 人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドラインの意義とその課題 樋口範雄
2. 「ガイドライン2018 改訂版」はどのような転換を推進するか 清水哲郎
3. 高齢化社会の救急・集中治療終末期における「プロセスガイドライン」の重要性と課題 伊藤 香

シンポジウム8 がんおよび非がん患者の終末期における薬の選択とマネジメント

座長コメント 山本 亮・平井みどり

1. 高齢者の薬物療法の課題 —特に非がん疾患終末期について 山口泰弘
2. がんおよび非がん患者の薬物療法を効果的にする工夫 岡本禎晃
3. 街の薬局だからできる！住み慣れた地域で最後まで生活するための薬のマネジメント 畑 世剛

ワークショップ

1. 自己理解・他者理解をチーム医療に活かす！
—MBTI®を用いた多様性の理解を全人的医療につなげる 豊田昌徳
2. こどもの看取りをする家族への支援を家族同心球環境理論（CSFET）で紐解く 法橋尚宏, 他
3. マインドフルネスの実践 岩井圭司
4. STAS-J の後継版：IPOS（Integrated Palliative care Outcome Scale）を用いてケアの質を高める 宮下光令

国際交流広場 死にゆく人と共にあるために —GRACE プログラム体験ワークショップ

座長コメント 藤井義博・栗原幸江

1. 「死にゆく人と共にある」ための姿勢を育む — GRACE プログラムを体験してみよう 藤田一照

企画委員会主催シンポジウム 真の援助者を目指して

座長コメント 小澤竹俊

1. 絆でできた診療所 遠藤清次
2. 「患者のために」を実現するために歩み続けた鍼灸師の30年 齋藤剛康
3. 聴くことしかできなかった私へ —真の援助者を目指して 相田里香

教育研修委員会主催2019年度第2回教育研修ワークショップ

死の臨床におけるコミュニケーション —スピリチュアルケアを目指して 長澤昌子

特別事例検討

1. 同職種である若年成人患者への寄り添い方に困難を感じた1事例 赤木亜季奈, 他
2. 重症大動脈弁狭窄症で維持透析中の患者に大学病院緩和ケアチームとして意思決定に関わった事例 鷹津 英, 他
3. 透析非導入を希望していた肺がんに罹患した慢性腎不全患者が終末期に透析開始を選択した
終末期を振り返って 加藤博美, 他
4. 母親としての役割を大切にしながらがん患者とその子どもへの治療期から看取りまでの
サポートのあり方 柴田麻美
5. 「寄り添えない苦痛」をどう捉えるべきか —投薬拒否を続ける患者への関わり 矢野有紀
6. 壮年期における非がん患者の自宅看取り —最期まで聞けなかった本人の想いと看護師の葛藤 辻 良子, 他

事例検討

1. 補完代替療法を受けていたAYA世代の患者は生と死にどう向き合ったのか。

- 医療者はなにができたのか。 大森美紀
2. 学童期から抱き続けた「死の恐怖」を連綿と語る男性の面接を通して 小杉孝子
 3. 生命の予後予測 2 カ月で ACP を行った 1 事例の明と暗 林 良彦
 4. 笑顔を大切に、信念としてきた A 氏が選択した持続的鎮静と希望 近藤美希, 他
 5. AYA 世代のがん終末期患者との関わりを通して 加登岡紗矢佳, 他
 6. リスクを負いながらも「胃から栄養をつけたい」という患者の希望と医学的適応の狭間で
葛藤した 1 事例 鶴澤茂代, 他
 7. 呼吸困難による苦痛を抱えたまま亡くなった患者への症状緩和のあり方と元妻への
グリーフケアを考える 小川佐知子, 他
 8. 1 カ月間の鎮静が行われたがん性髄膜炎患者とその家族の関わりを支えて 岩城隆二, 他
 9. グループホームでの介護職と共に取り組んだ「人生会議」のプロセス 平野頼子
 10. 老老介護のなか、親の葛藤・子どもの葛藤、後悔の残る症例から
“老夫婦を支える”病院・地域の役割とは？ 田中夏江
 11. 希少がんに罹患した AYA 世代の患者に対する医療者の葛藤 真上美千子, 他
 12. 緩和ケアチームと病棟の鎮静に対する信念対立が発生しチームの看護師として悩んだ事例
柚木三由起, 他
 13. いっさいの連絡手段を持たなかった独居がん患者の在宅看取りの経験 井上明美, 他
 14. 経済的問題を抱えた若年がん患者との関わり 山本真由, 他
 15. 患者の最期の希望である外泊の実現 — 外泊に行けた喜びと DNAR が尊重されなかった葛藤
板井悠子, 他
 16. 患者本人にバッドニュースを伝えないという家族の希望に対して緩和ケアチームは
どのように寄り添えるのか 佐々木慈瞳, 他
 17. 自己中心的な父、依存的な母、そして、多動な弟 兄を失った後、
家族再統合のためにできることは何か？ 塚原和香奈, 他
 18. 「この腕を差し上げます」といった創外固定中の患者のアロマを活用したケア 三谷野聰子, 他
 19. 高用量オピオイドの退薬症状として痙攣発作をきたした 1 例 坂本雅樹, 他
 20. ホスピス病棟で親族を看取った悲嘆を経験して — あなたは受け持ちますか？ 八尋 郁, 他

原著

1. 犯罪被害による子どもの死が児童期・青年期のきょうだいに及ぼす影響の探索（続報）
— 親の感情・認識と親子関係の変化 赤田ちづる, 他

調査報告

1. ホスピス緩和ケア病棟実習で臨死期患者にかかわる際の看護学生の不安とその緩和要因
清水佐智子, 他
2. 特別養護老人ホームにおける遺族の看取り体験 橋本美香
3. 在宅でがん患者を亡くした遺族の心的外傷後成長と関連要因 武富由美子, 他
4. がんの病状や治療に関わるバッドニュースを伝えることに伴う医師の困難と看護師に求めること
四方田朋子, 他
5. 緩和ケア病棟においてがん患者を看取る看護師の予期悲嘆と影響要因 松浦有沙, 他